

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と改善方途

全国の中学校3年生(9年生)と小学6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」で明らかになった本校の学力の傾向、生活習慣や学習環境に関する意識についてお知らせします。また、北学園で学力向上に向けての改善方策をまとめました。

◆学力に関する調査の結果から

		特に身に付いている内容	課題のある内容
国語	6年	・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと	・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること ・漢字を文の中で正しく使うこと
	9年	・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること ・(具体と抽象など) 情報と情報との関係についての理解	・文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること ・文の成分の順序や照応についての理解
算数 ・ 数学	6年	・数量の関係を、□を用いた式に表すこと ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること	・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて説明すること
	9年	・問題場面における考察の対象を明確に捉えた、正の数と負の数の加法の計算 ・事象に即して複数のグラフやy軸との関係についての解釈	・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること ・読み取りの判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

◆生活習慣や学習環境に関する質問紙の結果から

*「学校に行くのは楽しいと思うか。」 **学校の楽しさ**

前88%、後81%の児童生徒が“学校に行くのは楽しい”と回答しています。一方で、“いじめは、どんな理由があってもいけない”と回答している児童生徒は前97%、後90%という結果でした。「当てはまらない」回答をしていることは、言い換えると、「いじめられてもいい理由がある、いじめられても仕方がない」と考えることができます。引き続き、学級での活動や人権教育に関わる取組などを通して、一人一人の違いを認め合い、どの子も自分の居場所を感じ、全員が自分らしく楽しく過ごせる学校にしていくことが大切だと考えています。

*「将来の夢や目標をもっているか。」 **夢や希望**

前76%、後67%の児童が“夢や目標をもっている”と回答しました。発達段階に応じて現実的なことが見えてきたり、自分の将来について深く考え始めたりします。そのような中で、9年間の発達段階に応じた総合的な学習の時間や進路に関わる学習を通して、自分の意欲や適性などを理解し、自分の将来に向けて前向きに考え、切り拓いていけるような進路学習を進めています。

＊「自分にはよいところがあると思うか。」 **自己肯定感**

前 92%、後 83%の児童生徒が自分のよさを感じています。全国や県の平均値と比較すると高い結果です。また、“先生は、あなたのよいところを認めてくれている”と答えた児童生徒は前 98.9%、後 95.3%でした。自分のよさを見つけ、伸ばし、発揮できる学校づくりを、児童・生徒と教師で進めていくことが大切だと考えています。

＊「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて」 **ICT機器の活用**

ICT機器を活用することについての質問	前期課程	後期課程
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	85%	90%
分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	93%	99%
楽しみながら学習を進めることができる	90%	88%
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	88%	85%
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	93%	90%
友達と協力しながら学習を進めることができる	94%	90%

多くの児童生徒がICT機器を活用することの効果を感じながら学習に役立っています。今後もICT機器を有効に活用し、引き続き学習効果が上げられるように指導を行います。

＊「平日、休日に1時間以上の学習をしているか。」 **家庭学習**

前 平日52%、休日42.3%、後 平日72.6%（2時間以上は41.5%）、休日69.7%（2時間以上は43.3%）という結果でした。学校からの宿題だけでなく、自主的に進める学習にも取り組めるように、自主学習でもICT機器を活用したり、自分にとって必要な学習内容を自分で選択して行えたりするように指導をしていきたいです。それに加えて、こつこつと地道に努力する取り組みを認めながら、粘り強く学習を積み重ねていく資質を育てていきます。

◆今後の改善方策

- ＊「人権について考える日」や「いじめについて考える日」において、自分たちの身近な人権問題や日常で起こりうるいじめについて自分事として考える機会をつくることで、一人一人が安心して楽しく学校で過ごし、学べる場をつくろうとする意欲や態度を育てていく。
- ＊一人一人の分からなさに共感できる学級の風土の醸成に努める。
- ＊自分の考えを表現する力を伸ばすため、班や小集団での活動を通して、一人一人の「なぜ」「どうして」という疑問を協働的な学びで解決し、全ての児童生徒を取り残すことなく、一人一人に学びが生まれるようにする。
- ＊どの教科の授業においても、見方・考え方を働かせるようなICT機器等の活用を通して、基礎的な知識・技能を獲得できるように取り組む。さらに家庭学習においてもICT機器等を活用して基礎・基本の定着を図る指導をしていく。
- ＊国語科の授業を中心に、各教科はもとより、学校生活全般において、自分の考えと根拠を明らかにして“聴き合い、伝え合う活動”と“書く活動”を通して、自分の思いや考えを効果的にまとめたり、相手に伝わるように表現したりする力を伸ばしていく。
- ＊算数・数学では、問題解決するための根拠を明らかにできるよう、普段の授業において、解だけでなく答えを導くその過程を大切にして、探究的に粘り強く取り組む力を伸ばしていく。
- ＊異学年交流を通して上級生が下級生に頼られたり、感謝されたりすることによって自分のよさに気づき、自己肯定感を高めていくような営みを設けていく。